

東海大学生

ハイブリッドロケット

打ち上げ成功

【大樹】東海大学工学部航空宇宙学科の学生らでつくる「東海大学学生ロケットプロジェクト」は14日、町多目的航空公園の北側にある区域で、実弾を使用しないハイブリッドロケットの打ち上げ実験を行った。予定していた高度1キに達し、ロケットの分離にも成功した。しかし、軟着陸用のパラシュートが開いた際、機体の一部が外れてそのまま落下。日が沈み、同日中の機体回収はできなかった。

(松村智裕)

東海大の打ち上げ実験は今年で3回目。判澤師 学生45人が来町しは毎年この時期に行わ 正久教授と中篠恭一講 た。

ロケットは全長2・4以、直径10センチ、重さ約16キ。

大樹で 高度1キロに達し分離



発射台から打ち上げられたハイブリッドロケット (14日午後5時15分)



ロケット発射前に最終調整をする堤さん(右)ら東海大の学生

機体はガラス繊維強化プラスチック製。ワックスを燃料とし、酸化剤に亜酸化窒素を使用している。発射場から半径1キを立ち入り禁止の保安区域とした。

今回は初めて、学生がエンジンと機体すべてを製作。風が収まるのを3時間ほど待ち、午後5時15分に発射、この音とともに一直線と空へ打ち上がった。15日はロケットに搭載した加速度計、電子シャイロなどの計測機器からデータを収集するため、機体の回収作業を行っ

た。学生実験責任者の堤明正さん(東海大3年)は「学生主体のプロジェクトでハイブリッドロケットを高度1キまで打ち上げたのは日本初では。ただ、打ち上げの衝撃に対する見積もりが少なかつたかもしれない」と話していた。16日午後には再びハイブリッドロケットを打ち上げ、高度600メートルで小型模擬衛星を放出する予定。